



9.98スタジアム(福島県営陸上競技場)

[発刊のことば]

天皇皇后両陛下、皇太子殿下をはじめ、多くの皇室の皆様方の御臨場を仰ぎ、「織りなそう 力と技と美しさ」をスローガンに開催いたしました明治150年記念 第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」および第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」は、両大会合わせて延べ70万人もの方々に御参加いただき、大成功のうちに幕を下ろすことができました。

大会の成功は、参加された選手・役員の皆様、市町や競技団体、企業、学校、そしてボランティア、応援等していただいた皆様など、関係各位の御支援・御協力の成果であり、心から御礼申し上げます。

この大会は、国体と障スポの「融合」を掲げ、障がいのあるなしにかかわらず一緒に力を合わせ、スポーツの素晴らしさや可能性を共有し、スポーツ参加の新しい姿を全国に示すことができました。

競技成績については、国体では男女総合優勝（天皇杯）を獲得するとともに、初めての女子総合優勝（皇后杯）を獲得するという完全優勝を成し遂げ、障スポでは過去最高となる130個のメダルを獲得するほか、5つの大会新記録を樹立しました。

今回の「チームふくい」の好成績は、選手や監督の皆様はもちろん、県スポーツ協会、競技団体、県などが競技力向上に努めてきた成果であり、素晴らしい成績と大きな感動を県民にあたえてくれたことに深く敬意を表します。

今大会では、雨の中の開会式で披露した全力の演技により、県民の元気を観客や全国の選手団の皆様に届けることができました。また、両大会を通じて、全国初の試みである両大会の融合に加え、各会場での温かいおもてなし、文化プログラムを通した「幕末明治福井150年博」、トップブランドである恐竜や「いちほまれ」など本県独自の魅力を発信できたものと存じます。

この県民が一丸となった「国体・障スポ」の経験や成果をレガシーとして、今後のスポーツ、芸術や文化の振興、そして障がいのあるなしに関わらず支えあうという共生社会の実現など、ふるさとの発展に活かしてまいります。

結びに、皆様の心に両大会の記憶が末永く残りますとともに、本報告書が広く御活用いただけますことを祈念申し上げまして、発刊のことばといたします。



「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会会長

福井県知事 西川一誠